

※ 本書面の写しは、手続開始前に相手方全員に送付します。

記載例

受付印		遺 産 分 割 調 停 申 立 書 審 判	
		(被相続人1人につき収入印紙1,200円分をこの欄にはる。)	
収入印紙	円		
予納郵便切手	円	(貼った印紙に押印しないでください。)	

関連事件番号	平成・令和	年(家)	第	号
--------	-------	------	---	---

大 阪 家 庭 裁 判 所 御 中 令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日	申 立 人 (又は法定代理人等)の記名押印 ※複数名の場合は連名で記名押印	家 裁 太 郎 印
---	---	------------------

添付書類	■ 被相続人の戸籍(除籍,改製原戸籍)謄本6通	■ 住宅地区	4通	
	(亡くなった相続人がいればその方の出生から死亡までの戸籍謄本も必要)			
	■ 相続人全員の現在の戸籍謄本	3通	■ 預貯金の現在残高証明書の写し	3通
	■ 被相続人の住民票除票又は戸籍附票	1通	(金融機関名,支店名,口座番号の記載があるもの)	
	■ 相続人全員の住民票又は戸籍附票	3通	■ 株式等の残高証明書	5通
	■ 相続関係図	1通	<input type="checkbox"/> 自動車の登録事項証明書	通
	■ 遺産目録	1通	<input type="checkbox"/> 相続税申告書の写し	通
	■ 登記事項証明書(不動産)	5通	<input type="checkbox"/> 遺言書の写し	通
	■ 固定資産評価証明書	1通	■ 保険証書写し1通, ■ 金銭消費貸借契約書写し1通	

当事者	別紙当事者等目録記載のとおり
-----	----------------

被相続人	本 籍	大阪市中央区●●1丁目1番地	
	最後の住所	大阪市北区●●2丁目2番2号	
	氏 名	家裁 花子	昭和 平成 元 年 7 月 3 0 日死亡 令和

(注) 太枠の中だけ記入してください。

※ 本書面の写しは、手続開始前に相手方全員に送付します。

記載例

申立ての趣旨

■ 被相続人の遺産の全部の分割の(■ 調停/□ 審判)を求める。

□ 被相続人の遺産である別紙遺産目録記載の財産のうち、

--

の分割の(□ 調停/□ 審判)を求める。

※ 一部の分割を求める場合は、上記 枠内に分割の対象とする遺産目録記載の番号(例) A 1, C 2) を記入してください。

申立ての理由

共同相続人間で遺産分割協議が整わないため、申立てをする。

共同相続人	別紙当事者等目録記載のとおり															
遺産	別紙遺産目録記載のとおり															
事前の遺産の一部分割	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない ※ この申立てまでにした被相続人の遺産の一部分割の有無を選択してください。															
事前の預貯金債権の行使	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない ※ 相続開始時からこの申立てまでに相続人のいずれかが民法909条の2に基づいて単独で預貯金債権の行使をした事実の有無を選択してください。															
特別受益	1 特別受益の主張 <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない															
	2 (1で「ある」の場合) その内容を記載してください。															
	<table border="1"><thead><tr><th>特別受益者 (生前贈与や遺贈を受けた人)</th><th>特別受益の時期</th><th>特別受益の内容 (対象物, 金額, 数量など)</th></tr></thead><tbody><tr><td>相手方家裁二郎</td><td>平成20年12月頃</td><td>住宅建築資金として2000万円</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	特別受益者 (生前贈与や遺贈を受けた人)	特別受益の時期	特別受益の内容 (対象物, 金額, 数量など)	相手方家裁二郎	平成20年12月頃	住宅建築資金として2000万円									
	特別受益者 (生前贈与や遺贈を受けた人)	特別受益の時期	特別受益の内容 (対象物, 金額, 数量など)													
	相手方家裁二郎	平成20年12月頃	住宅建築資金として2000万円													
	※ 特別受益とは、相続分の前渡しと見られるような生前贈与や遺贈のことです(民法903条)。															

(注) 太枠の中だけ記入してください。

※ 本書面の写しは、手続開始前に相手方全員に送付します。

(別紙)

当事者等目録

記載例

申立人	住所	〒 540-000● 大阪市中央区大手前●-●-●		方)
	送達場所	■上記住所と同じ 〒 -		方)
	フリガナ氏名	カサイ タロウ 家裁 太郎	被相続人との続柄	
	資格	<input type="checkbox"/> 弁護士 <input type="checkbox"/> 親権者 (<input type="checkbox"/> 父 <input type="checkbox"/> 母) <input type="checkbox"/> 成年後見人 <input type="checkbox"/> 特別代理人 <input type="checkbox"/>		
	フリガナ氏名	※2	長男	
代理人	フリガナ氏名			
	住所	〒 -		方)
※1 相手方	住所	〒 540-000■ 大阪市中央区大手前■-■-■		方)
	送達場所	<input type="checkbox"/> 上記住所と同じ 〒 -		方)
	フリガナ氏名	カサイ ジロウ 家裁 二郎	被相続人との続柄	
	資格	<input type="checkbox"/> 弁護士 <input type="checkbox"/> 親権者 (<input type="checkbox"/> 父 <input type="checkbox"/> 母) <input type="checkbox"/> 成年後見人 <input type="checkbox"/> 特別代理人 <input type="checkbox"/>		
	フリガナ氏名	※2	二男	
代理人	フリガナ氏名			
	住所	〒 -		方)
※1 相手方	住所	〒 540-000▲ 大阪市中央区大手前▲-▲-▲		方)
	送達場所	<input type="checkbox"/> 上記住所と同じ 〒 -		方)
	フリガナ氏名	カサイ ハルコ 家裁 春子	被相続人との続柄	
	資格	<input type="checkbox"/> 弁護士 <input type="checkbox"/> 親権者 (<input type="checkbox"/> 父 <input type="checkbox"/> 母) <input type="checkbox"/> 成年後見人 <input type="checkbox"/> 特別代理人 <input type="checkbox"/>		
	フリガナ氏名	※2	長女	
代理人	フリガナ氏名			
	住所	〒 -		方)

(注) 太枠の中だけ記入してください。※1の欄は、申立人、相手方又は利害関係人の区別を記入してください。※2の欄には被相続人から見た続柄を記入してください。包括受遺者等の場合には、その旨を記入してください。

※ 本書面の写しは相手方に送付します。
 ※ 裏付けとなる資料を添付してください。

(別紙)

遺産目録

被相続人氏名 家裁 花子

作成日 令和 年 月 日

記載例

A 不動産 ※記載した土地・建物等全ての不動産について、連続した通し番号を振ってください。

〈土地〉 ※登記事項証明書のとおり書き写してください。

番号	所在	地番	地目	地積(m ²)	持分	持分×固定資産税評価額	土地上の建物の有無 (有の場合、どの建物があるのか) (それが遺産でない場合には所有者も記載・無の場合、土地の用途)	備考	書証番号
1	大阪市中央区〇〇1丁目	〇番〇	畑	100.53m ²	1	¥68,741,024	■建物無し 貸駐車場として使用		甲1.5
2	大阪市北区〇〇2丁目	〇番〇	宅地	212.00m ²	2/3	¥84,741,553	□建物無し 建物3の敷地 共有持分 申立人1/3		甲2.5

〈建物〉 ※登記事項証明書と固定資産税評価額記載の床面積等が異なる場合でも、登記事項証明書のとおり書き写してください。

※未登記の場合は、固定資産税評価証明書のとおり書き写してください。

番号	所在 (※ 住居表示が分かる場合は、併記する。)	家屋番号 (符号)	種類・構造	床面積(m ²)	持分	持分×固定資産税評価額	敷地占有権原 (敷地が遺産でない場合には敷地の所有者も記載)	備考	建物利用者	書証番号
3	大阪市北区〇〇2丁目〇番地〇	〇番〇	居宅 木造瓦葺2階建	1階 65.07m ² 2階 43.75m ²	2/3	¥3,764,850	所有権 共有持分 申立人1/3			甲3.6
	附属建物	(符号1)	車庫 木造亜鉛メッキ 鋼板葺平家建	25.58m ²	同上	¥201,442	同上			甲6
4	大阪市西区〇〇3丁目〇番地〇	未登記	専用住宅 木造瓦葺平家建	81.77m ²	1	¥4,847,502	借地権 (所有者 家事次郎)			甲4.6

〈区分所有建物・マンション〉 ※登記事項証明書のとおり書き写してください。

一棟の建物の表示	所在	大阪市淀川区〇〇4丁目〇番地〇		建物利用者	空き家	
	建物の名称	家裁マンション		書証番号	甲7	
	敷地権の目的である 土地の表示	土地の符号/所在及び地番	1/大阪市淀川区〇〇4丁目〇番〇		備考	
		地目/地積(m ²)	宅地/950.27m ²			
	専有部分の建物の表示	家屋番号/建物の名称	〇〇4丁目〇番〇の〇/101号			
		種類・構造/床面積(m ²)	居宅・鉄筋コンクリート造1階建/1階部分65.85m ²			
	敷地権の表示	土地の符号/敷地権の種類	1/所有権			
		敷地権の割合	150387分の3058			
持分	1	持分×固定資産税評価額	¥7,524,478			

〈地上権または借地権その他用益権(使用借権を除く)〉 ※提出書証のとおり書き写してください。

(対象となる土地)所在/地番/地目/敷地権の対象となる地積(m ²)(※土地の地積ではない)	大阪市西区〇〇3丁目/〇番〇/宅地/101.23m ²			固定資産評価による所有権価額 (ただし、敷地権の対象となっている分に限る)	不明	備考
敷地権の種類	借地権	土地の所有者	家事 次郎	返還される敷金額	不明	
どの建物の目的となっている敷地権か	建物4の敷地	期限	令和〇〇年〇〇月〇〇日	書証番号	甲8	
不動産評価額合計					¥164,973,347	

※ 本書面の写しは相手方に送付します。
 ※ 裏付けとなる資料を添付してください。

記載例

B 預貯金（定期、定期預貯金を含む。） ※金融機関発行の証明書等のおりに書き写してください。

番号	金融機関・支店名	種類	口座番号・記号番号	死亡時の残高	現在残高	書証番号	備考
1	ゆうちょ銀行	通常貯金	〇〇〇〇〇-〇〇〇〇〇〇	¥503,275	¥253,065	甲9	
2	〇〇銀行〇〇支店	普通預金	〇〇〇〇〇〇〇	¥1,200,000	¥501,269	甲10	
3	〇〇銀行〇〇支店	定期預金	〇〇〇〇〇〇〇	¥1,000,000	¥1,011,589	甲11	

※現在残高の合計を記入してください。

預貯金合計額	¥1,765,923
--------	------------

C 国債、株式、社債（ただし、投資信託は除く。） ※金融機関発行の証明書等のおりに書き写してください。

番号	銘柄 (※証券がある場合は、証券の番号も記載)	数量 (株数、口数等)	取扱金融機関/口座番号	現在の評価額合計 (数量×1株(1口)当たりの評価額)	書証番号	備考
1	分離適格振替国債/10年/第〇〇〇回	4口 (額面1口10万円)	△△銀行△△支店/〇〇〇〇	¥420,000	甲12	
2	〇〇株式会社	100株	△△証券△△支店/〇〇〇〇	¥1,350,000	甲13	

株式等合計額	¥1,770,000
--------	------------

D 投資信託

※金融機関発行の証明書等のおりに書き写してください。

番号	銘柄	数量 (口数)	取扱金融機関/口座番号	現在の評価額合計 (数量×1口当たりの評価額)	書証番号	備考
1	MMF	102500口 (令和〇年〇月〇日時点)	△△証券△△支店/〇〇〇〇	¥102,500	甲14	
2	先進国株式インデックスファンド	154700口	△△証券△△支店/〇〇〇〇	¥214,000	甲14	

投資信託合計額	¥316,500
---------	----------

E 保険契約の解約返戻金、保険金（ただし、被相続人以外の者が受取人になっているものは除く。）

※保険会社発行の保険証書等のおりに書き写してください。

番号	種目/保険会社・保険の種類・保険証券番号・被保険者・契約者	金額	書証番号	備考
1	〇〇生命保険相互会社・〇〇生命保険・〇〇〇〇号・被保険者〇〇〇〇・契約者被相続人	¥600,000	甲15	

保険契約の解約返戻金、保険金合計額	¥600,000
-------------------	----------

F 貸金等の債権 ※原則、審判の対象となりません。

※提出書証のおりに記載してください。

番号	種目/債務者	金額	書証番号	備考
1	貸金/債務者〇〇〇〇・貸付日平成〇年〇月〇日	¥1,000,000	甲16	

貸金等の債権合計額	¥1,000,000
-----------	------------

G その他の遺産（信用金庫等への出資金、動産、被相続人が死亡時に現に有していた現金等）

※金融機関発行の証明書等のおりに書き写してください。

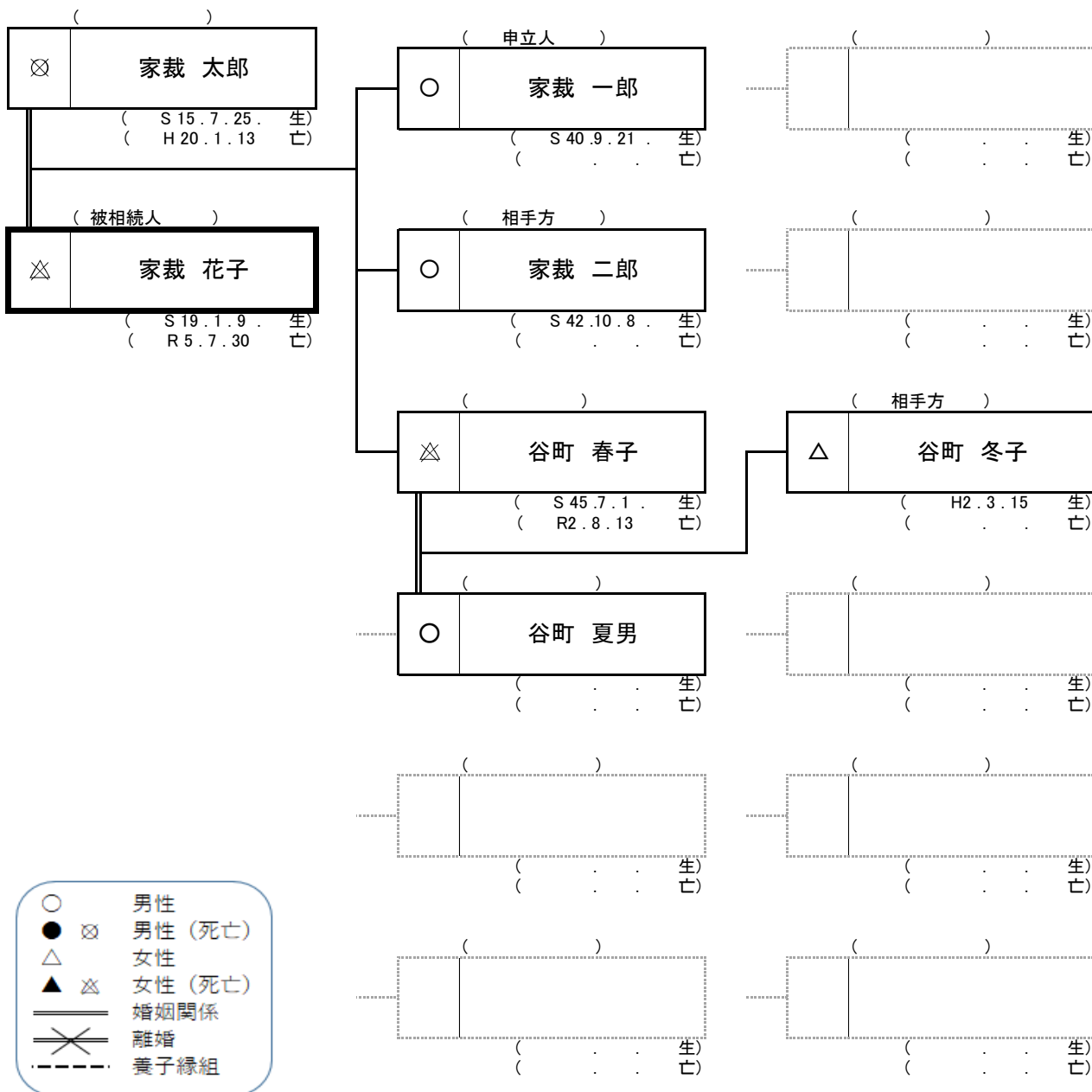
番号	種目	数量(口数、円等)	保管者または所在地	現在の評価額合計	書証番号	備考
1	出資金(〇〇信用金庫〇〇支店)	2000口		¥100,000	甲17	
2	現金	80万円	申立人	¥821,454		
3	金/商標〇〇〇/〇〇g/ 金塊番号〇〇〇	1本	相手方家裁二郎	¥1,052,000	甲18	

その他の遺産の評価額合計	¥1,973,454
--------------	------------

※ 本書面の写しは相手方に送付します。
※ 裏付けとなる資料を添付してください。

A~Gの遺産総合計	¥172,399,224
-----------	--------------

記載例



相続関係図の作成方法

1 記号・罫線の使い方

○	男性	====	婚姻関係	--- or ---	養子縁組
● or ⊗	男性 (死亡)	==== X	離婚	--- or ---	離縁
△	女性	----- or ~~~~	内縁等 (婚姻関係にない男女)		
▲ or ⊗	女性 (死亡)				

2 留意事項

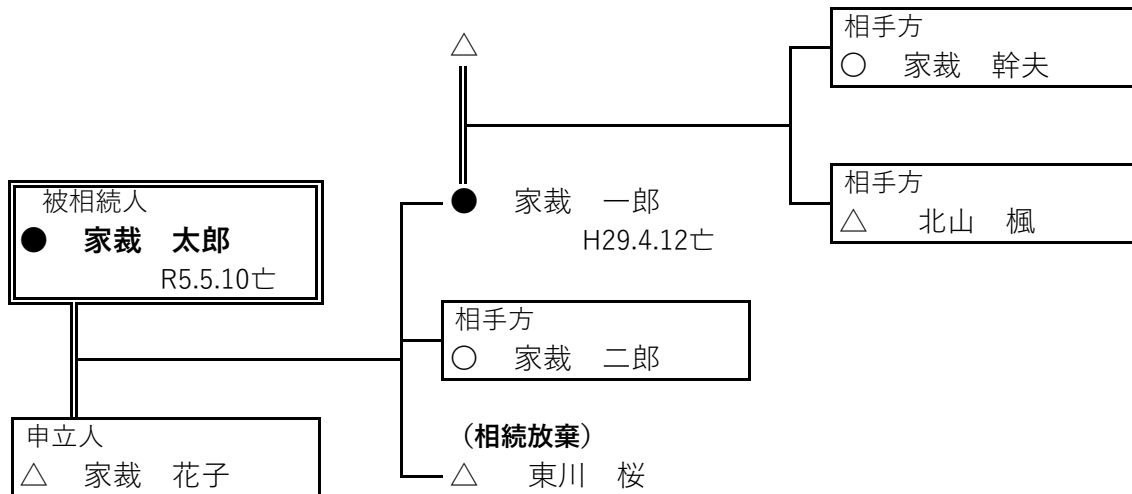
- ・ **肩書** (被相続人・申立人・相手方など) を記載してください。
- ・ 被相続人、被代襲者、数次相続 (再転相続) における被相続人等の **死亡日** は必ず記載してください。
- ・ 同名の方が登場する場合は、**生年月日** も必ず記載してください。
- ・ **養子縁組** は **縁組日** を必ず記載してください。
- ・ 養子縁組の記載にあたっては、養父 (養母) のみとの縁組の場合は、**当該養父 (養母) の名前の下から養子線** を引いてください。養父母との縁組の場合は、**養父母の婚姻線から養子線** を引いてください。これを誤ると相続分の計算が正しく行えません。
- ・ 転縁組がなされたり、親族間で養子がなされている場合など、養子縁組関係等が入り乱れて一見して相続関係が把握しにくい相続図の場合は、各相続人の肩書欄付近に「**実父母：●●・▲▲、養父1：◎◎、養父2：■ ■、養父母3：★★・◆◆**」などと明示してください。また、同じ人物が複数登場する場合は、「**●●・▲▲の長男と同一人物**」などとわかるように記載してください。
- ・ 法定相続情報一覧図では、相続に関係のない人物の名前の記載が省略されています (被代襲者、兄弟姉妹相続における実父母や養父母、先に死亡している者等)。遺産分割係では**相続分の計算が重要**になりますので、誰が誰の子なのか確認する必要があります。裁判所に提出する相続関係図では、**名前を記載**してください。
- ・ 1枚に書ききれない場合や1つの図にまとめると複雑になりすぎる場合は、複数枚になっても構いません。

正確な相続関係図の作成をお願いします。



《作成例1》代襲相続

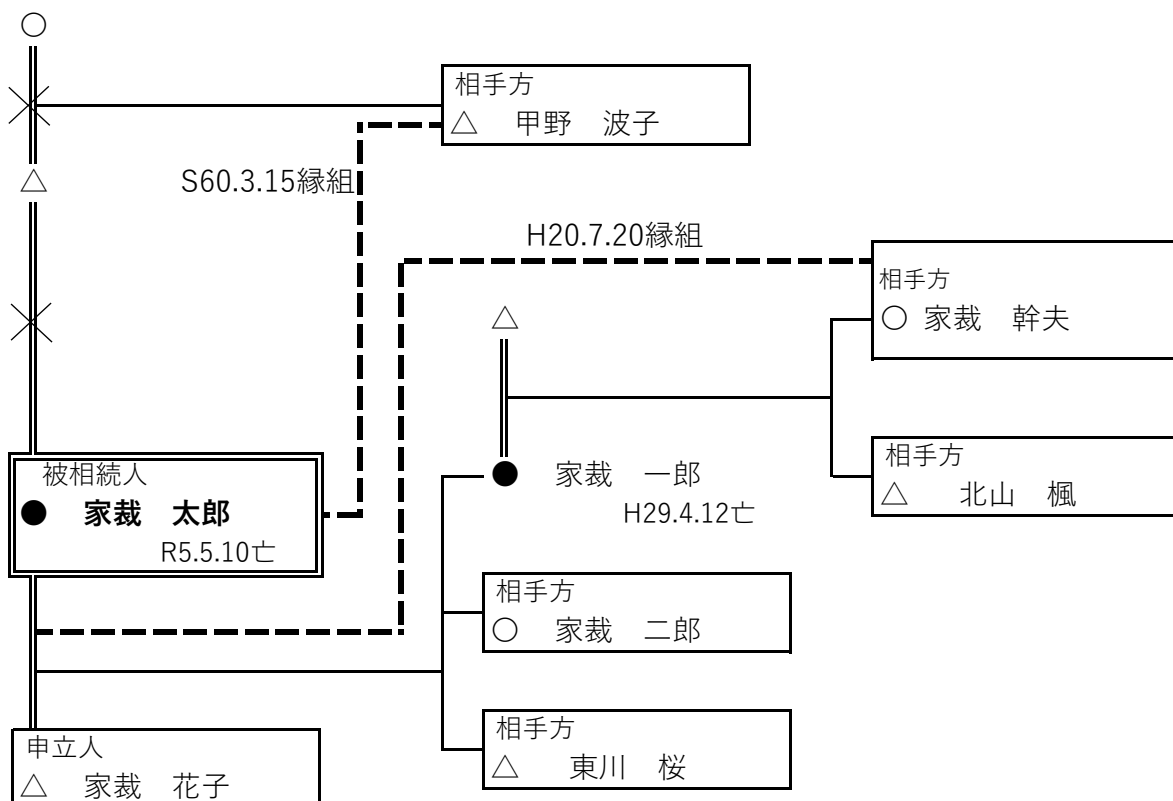
被相続人太郎死亡前に長男一郎が先に死亡していた場合。



《作成例2》養子縁組

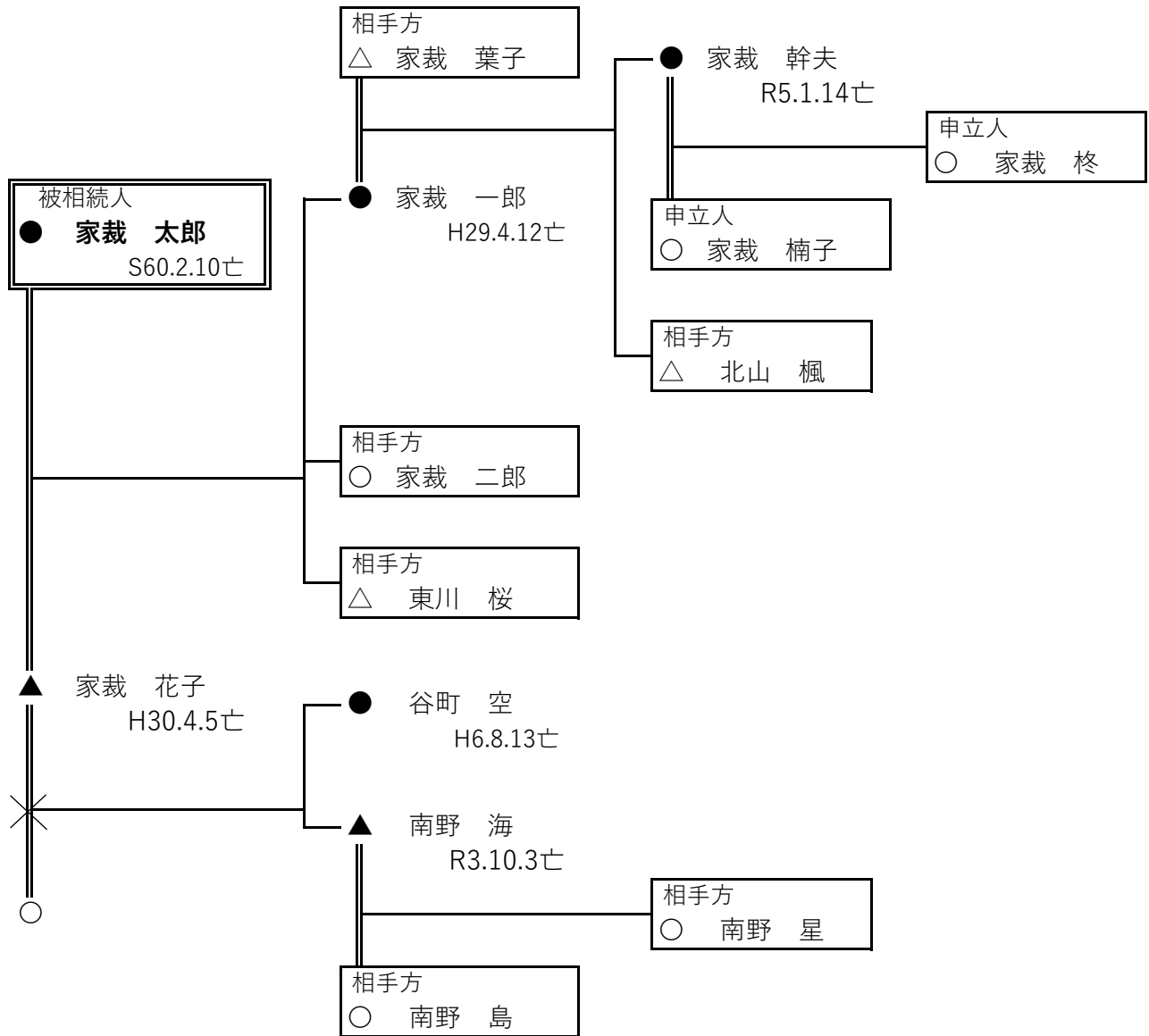
被相続人太郎が次のとおりの養子縁組をしていた場合。

- ①被相続人太郎が前妻の子である波子と養子縁組
- ②被相続人太郎が配偶者花子とともに孫（長男一郎の長男）である幹夫と養子縁組



《作成例3》数次相続

被相続人太郎が死亡した後、①長男一郎、②配偶者花子、③配偶者花子の長女海、④長男の長男幹夫が順に死亡した場合。



- ※ 本書面は申立書を補うものです。申立書とともに提出してください。
- ※ 本書面は相手方から申請があれば、見せたり、コピーを取らせることがあります。
- ※ 本書面は、被相続人ごとに、申立人1人につき1通ずつお書き下さい。

事 情 説 明 書

令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日

氏名 家 裁 太 郎 ④

事件番号 令和 年 (家) 第 号

1 相続人について

相続人の範囲（相続人は誰か）について争いがありますか。 はい いいえ

※ 「はい」の場合、争われている方の氏名と理由を記載して下さい。

2 遺産の範囲について

遺産は、遺産目録記載のとおりである。

遺産目録のほかにも、遺産がある可能性がある。

（遺産を管理している者： 相手方家裁二郎 ）

遺産目録中に、被相続人の名義ではないものがある。

（遺産目録の番号： ）

3 遺言書について

遺言書はありますか。 ある ない 分からない

※ 「ある」の場合は、以下の質問にお答え下さい。

(1) 遺言書の種類

公正証書遺言 自筆証書遺言（検認未了）

自筆証書遺言検認済： 家庭裁判所 支部 平成・令和 年 (家) 第 号

(2) 遺言書を所持している人

申立人（ ） 相手方（ ） その他（ ）

(3) 遺言書の内容はわかりますか。 はい いいえ

※ 「はい」の場合、遺言書に記載されていない遺産はありますか。

はい いいえ

(4) 遺言書の効力に争いが生じる可能性はありそうですか。 はい いいえ

- ※ 本書面は申立書を補うものです。申立書とともに提出してください。
- ※ 本書面は相手方から申請があれば、見せたり、コピーを取らせることがあります。
- ※ 本書面は、被相続人ごとに、申立人1人につき1通ずつお書き下さい。

※ 「はい」の場合、こういった理由で遺言書の効力が争われそうですか。

※なお、遺言書をお持ちの方は、写しを提出してください。

4 事前の遺産分割協議について

(1) 遺産分割協議はしましたか。

はい→(2)へ いいえ→(協議をしていない具体的な理由：
_____)

(2) 遺産分割協議はまとまりましたか。

はい→(3)へ

いいえ→(遺産分割協議がまとまらなかった理由を記載して下さい。)

相続人の範囲 遺産の範囲 分割方法 その他 (特別受益)

遺産分割協議がまとまらなかった具体的な理由

申立人はA 2 及びA 3 の不動産の取得を希望し、その評価額について固定資産税評価額とすることを主張したが、相手方家裁二郎は時価額がそれ以上の金額になることを主張した。また、相手方家裁二郎は被相続人から住宅建築資金の贈与を受けていないと主張し、特別受益の有無が争いになった。

(3) 遺産分割協議書は作成しましたか。

はい いいえ

5 事前の遺産の一部分割について

(1) この申立てまでに、被相続人の遺産の一部のみを対象にして、分割をしたことがありますか。

はい→(2)へ いいえ

(2) 分割の際にどのような書面を作りましたか。

裁判所の審判書又は調停調書

(家庭裁判所 平成・令和 年(家) 第 号)

遺産分割協議書

その他 ()

※なお、(2)にチェックを入れた方は該当する書面の写しを提出してください。

- ※ 本書面は申立書を補うものです。申立書とともに提出してください。
- ※ 本書面は相手方から申請があれば、見せたり、コピーを取らせることがあります。
- ※ 本書面は、被相続人ごとに、申立人1人につき1通ずつお書き下さい。

6 事前の預貯金債権の行使について

(1) 被相続人が亡くなってから本申立てまでに、被相続人の預金から出金した人はいませんか。

はい（当該債権を行使した相続人の氏名 申立人） → (2) へ

いいえ

不明

(2) 出金の内容が分かる書面がありますか。

はい（ 金融機関発行の証明書等（甲第19号証） その他（ ））

いいえ

※なお、(2)にチェックを入れた方は該当する書面の写しを提出してください。

7 遺産の使用、管理状況について

(1) 遺産目録A記載の不動産は現在誰がどのように使用（又は居住）していますか。

A 1は貸駐車場として使用し、相手方家裁二郎が管理。A 2及びA 3は申立人が居住。A 4及びA 5は空き家で放置。A 6の賃料は申立人が支払っている。

(2) 遺産目録記載の上記(1)以外の遺産は、誰がどのように管理していますか。

C 2現金は申立人が保管。C 3金及びG 1の金銭消費貸借契約書は相手方家裁二郎が保管。その他は、各取扱金融機関が保管。

8 取得希望について

あなたがこの遺産分割において、どのような形での遺産取得を希望するのかを記載してください。

(例) 不動産の取得を希望する。

(例) 法定相続分に応じて代償金の支払を受けることを希望する。

A 2及びA 3の不動産の取得を希望する。

A 2及びA 3以外の遺産についての取得希望はないが、法定相続分に応じて代償金の支払を受けることを希望する。

- ※ 本書面は申立書を補うものです。申立書とともに提出してください。
- ※ 本書面は相手方から申請があれば、見せたり、コピーを取らせることがあります。
- ※ 本書面は、被相続人ごとに、申立人1人につき1通ずつお書き下さい。

記載例

9 寄与分について※

寄与を主張するのであれば、その内容を記入してください。

期間	内容
平成10年1月～平成23年12月	<input checked="" type="checkbox"/> 家業従事 <input type="checkbox"/> 金銭等出資 <input type="checkbox"/> 療養看護 <input type="checkbox"/> 扶養 <input type="checkbox"/> 財産管理 <input type="checkbox"/>
平成24年1月～令和元年7月	<input type="checkbox"/> 家業従事 <input type="checkbox"/> 金銭等出資 <input checked="" type="checkbox"/> 療養看護 <input type="checkbox"/> 扶養 <input type="checkbox"/> 財産管理 <input type="checkbox"/>
～	<input type="checkbox"/> 家業従事 <input type="checkbox"/> 金銭等出資 <input type="checkbox"/> 療養看護 <input type="checkbox"/> 扶養 <input type="checkbox"/> 財産管理 <input type="checkbox"/>

※被相続人の財産の維持または増加に対する親族間の相互扶助義務を超える特別な寄与に限られます（民法904条の2）。

10 相手方について

(1) 相手方は本件申立てをご存知ですか。

全員知っている。

全員知らない。

相手方 は知っている。

(2) 相手方に代理人弁護士は選任されていますか。または、その見込みはありますか。

不明

 弁護士（ 弁護士会）が選任されている（選任見込）。

TEL

FAX

(3) 相手方の調停期日への出席は見込まれますか。出席困難な事由（病気等）はないですか。

不明

調停には出席すると思われる。

調停には出席しないと思われる。

(理由)

- ※ 本書面は申立書を補うものです。申立書とともに提出してください。
- ※ 本書面は相手方から申請があれば、見せたり、コピーを取らせることがあります。
- ※ 本書面は、被相続人ごとに、申立人1人につき1通ずつお書き下さい。

1 1 審判申立ての場合（調停申立ての場合は記載する必要はありません。）

本件を調停手続に付することについて支障がありますか。

支障はない。

支障がある。

(理由)

1 2 その他

その他参考になることがあれば記載してください。